

買い物行こカー

店舗への送迎車

「買い物行こカー」は、2016年度に始めました。現在、**31台 35店舗**まで広がり、年間でのべ**13万1407人**が利用しています。

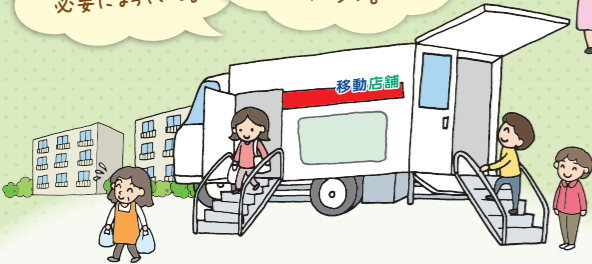
高齢者の悩みは「いつまでも安心して暮らしていける」これに生協が積極的に関わってほしい。

買い物行こカーや、移動店舗がもっと必要とされる時代がくる。広げてほしい。



「移動店舗」は、都市部でも必要になっている。

この地域ではスーパーがなく、買い物に困難な人が多い。



移動店舗

「移動店舗」は、都市部でも買い物に不便を感じている方々がもっと利用できるように、軽四車両を導入するなど、改善に取り組んでいます。現在、**10台 513カ所**、年間でのべ**11万5494人**が利用しています。

コミュニティ食堂 子ども食堂

地域と連携して運営する、「コミュニティ食堂」や「子ども食堂」が広がっています。現在、**43カ所**で運営しています。(休止中含む)

地域の方と「ふれあい広場」のような場で、一緒に食事ができるといい。



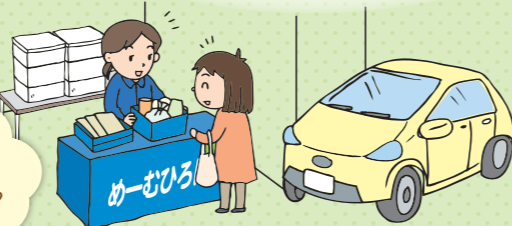
お互いに参加するという意識で、「これなら私もできるのでは」と思える場を作りたい。

困っている人の声と、助けたいと思っている人と結びつける仕組みづくりを。

買い物支援ボランティア

組合員が、組合員の買い物のお手伝い

「買い物支援ボランティア」は、2016年度に始めました。現在、**13の店舗**で取り組んでいます。(休止中含む)



体力がなくなって、台所仕事も減るといい。

店が近くに、宅配は命綱。宅配がなくなったら生活できない。

まいくる

栄養バランスに配慮した夕食弁当をお届け

「まいくる」は、メニューの充実や、冷凍おかず(冷凍まいくる)のおすすめなど、組合員のくらしに寄り添って、改善に取り組んでいます。現在、**1日 9599食**の利用があります。

地域めーむひろば

店舗以外の場所で、宅配商品の受け渡し

地域の企業の事業所などで、商品の受け渡しをする「地域めーむひろば」は、2018年度に始めました。現在、**33カ所**に広がっています。

地域との協働宅配

主に障がいのある方の就労や実習の場として、「週一宅配」や「めーむひろば」の仕組みを活用した取り組みが広がっています。

地域の担い手が運営する
■「週一宅配」………3拠点
■「めーむひろば」……6カ所

つながるマルシェ

コロナ禍で販売機会が減った福祉事業所を応援するため、2020年度から「つながるマルシェ」を実施。マルシェには、**福祉事業所が出品**して、授産品(パンや焼き菓子、手芸品、雑貨等)を販売しています。

健康づくり

兵庫県生協連や医療生協など、地域の協同組合と連携し、健康づくりに向けた取り組みの習慣化をめざす、「健康チャレンジ」が、2018年度から始めました。2022年度は、**4951人**が参加しました。

健康寿命を延ばすよう社会全体で取り組みを推進しなければ。



つながりや、つどえる場を生協が作り出すことが、地域づくりに発展していくと感じる。

地域の居場所・つどい場

「ふれあい喫茶」など、コープサークルが運営する「つどい場」づくりの取り組みが進んでいます。「ふれあい喫茶」は現在、**82カ所**に広がっています。(休止中含む)
「居場所・つどい場立ち上げ支援助成制度」は、2016年度に始めました。2022年度は、**19グループ**立ち上がりました。

地域に開かれたコープの「つどい場施設」は現在、**19カ所**あります

お米を贈ろう 助け合い募金

コロナ影響で広がる社会不安を少しでも和らげたいと願い、年間を通じて募金を実施。2022年度は、**約593万円の善意**が寄せられました。

集まった募金でお米を調達し、地域のさまざまな団体に提供していきます

コミュニティの再生のために、地域のメンバーとして、参加を求められている。

「地域づくり」の視点、もっと地域との連携を深めていく必要がある。

地域つながるミーティング

「地域との『出会い』の場、仲間との『協働』の取り組みが生まれ続ける場」をめざす、「地域つながるミーティング」。2022年度は、**のべ3263人(うち地域の方861人)**が参加。生協や地域のことなど、さまざまなテーマで話し合っています。

約9割の会場に、地域の諸団体(行政や社会福祉協議会、地域の活動者など)が参加しています

フードドライブ

家庭で余った食品を持ち寄って、フードバンクや子ども食堂などに提供する「フードドライブ」は、2017年度に始めました。2021年度からは店舗で**常時受付**をしています。

集まった食品は現在、地域の297のさまざまな団体に提供しています

マイバッグ運動が定着したように、社会的意義のある活動を。

「食品ロス」の問題は、生協が率先して取り組むべき。

助け合いのしくみ

コープくらしの助け合いの会(兵庫県内)
助け合い制度
コープむつみ会(大阪北地区)

地域住民の助け合いによって自立したくらしを支える有償の家事支援活動です。2022年度は、**のべ2716人が活動し、のべ3329人が利用**しました。

たすけタッチ

「ゴミ出し」など、ちょっとした困りごとをアプリの機能を使ってご近所同士で解決する取り組みが2021年1月に始めました。手助けしてほしい組合員と手伝える組合員がつながって実施されたたすけあいは、2022年度末まで**1260件**になりました。

できるときに、できる人が、できることを、ちょっぴりお手伝い。



コープこうべの活動エリア

37市 15町 3区

